

宮前区まちづくり協議会活動資金支援

市民活動を進めるためのコツ

(審査委員長総評取りまとめ)

令和5年11月

川崎市宮前区



宮前区まちづくり協議会の資金支援交付を受けた市民活動においては、毎回、資金計画説明会、活動報告会での審査が行われていますが、そこで過去に行われた村井審査委員長（現田園調布学園大学人間福祉学部長）による総評を編集してまとめました。

これから活動を始めようとするとき、すでに続けている活動を見直すときの良い指針となると思われますので、ご活用ください。

1. 市民活動を成功に導くために

・活動を成功に導くためには、きちんとした計画を作ってください。そしてより具体的で明確な目標を持つようにしてください。やるべきことや内容が具体的に見えてくるので、それを大切にして下さい。

・また、閉じた中では、その中でしか活動できません。広く開かれた活動にしていってはどうでしょうか。

・限られたメンバーでの活動は、内容の習熟やメンバー内の絆の深まりなど良い面もありますが、一方で外部に対して排他的・閉鎖的にならないよう注意してください。

2. 資金支援説明会・報告会での発表について

(1)説明会・報告会の意義

・説明会・報告会で発表するという事は、各団体のみなさんからすれば資金の獲得が大きな目標となるでしょうが、それだけでなく、その活動に共感する人、応援する人を増やすことにもなり、共感してもらえれば団体同士のコラボレーションにもつながります。

・計画説明、活動報告で改めて振り返ってみることが、みなさん自身のやりがいや、やる気にもつながるでしょう。

・説明会・報告会は、同時に出会い・交流の場でもあります。自分たちと交流したいと思ってもらうためにはわかりやすく魅力的なPRをすることが大事です。

・説明会・報告会は、お互いのノウハウの交流や貴重な社会資源としての交流のキッカケづくりでもあります。

・プレゼンテーションをするにあたっては普段から活動を記録し、それをまとめ、そのタイミングで見直して発表するという習慣が大切です。

・まだ見ぬ人ではなく、まず説明会・交流会に集まった人とのネットワーク化を考え、どこと手を組めるかなということを常に考えてください。

・自身の強みを明確にする。みなさんじゃないとできないことをPRする。どんどん情報を発信し、みなさん自身がいろいろなところから声をかけてもらえるように成長していって下さい。出会いとつながりの場を大切にして下さい。

・団体が増えるほど運営方法は多様化します。他の団体の組織運営を参考にして下さい

・ABコースの方は、卒業していく団体を見て、そのような活動に発展するよう参考にしていただきたい。

・説明会・発表会で発表したノウハウは、一般市民を募集する際にも使えます。資料を会員募集の資料とするなども考えられます。

・計画説明会は、社会に公開されています。有言実行の会という認識を持って下さい。

(2) ノウハウの共有・習得

・発表会での発表内容は、ノウハウにつながるものも多くあります。特に活動を始めたばかりの団体は、他の団体のノウハウを参考にして下さい。団体の悩みとか解決のノウハウをぜひ参考にさせていただき、活動を継続して下さい。

(3) 連携・コラボレーションの機会づくり

・発表会というのは聞くだけではなく、コラボレーションのパートナーを探す機会として、ここと手をつないでみよう、あの活動は私たちとやれそう、という出会いの場でもあります。そういった視点で見つけたパートナーと一緒に何かをやっていくという機会づくりを大切にして下さい。発表する側もそういう視点で発表していく姿勢をお願いします。自分たちはこういう活動をしています、今後こういう取組みをしていこうと思うけれど一緒にやれたらと思うので、どなたか声をかけていただけると嬉しい、という様なメッセージを発して、お互いにPRし、手をつなぐ機会をきちんと作っていくと良いと思います。

(4) 目指したい報告の姿

・まず、活動資金の審査をどのように？ どうして？ なんのために（？）やっているのかを改めて認識して下さい。地域への波及、公益性、先駆性、巻き込む力、誰でも参加しやすい、想いの力、主体性。誰かに頼って講師を呼ぶのではなく、聴いたことを地域に活かし、自分たちが講師になるつもりでやっているか？ ミッションや目的をもっているのか？ ビジョンがあるのか？ 熱意があるのか？ まちづくり協議会が大事にしている「つながりづくり」をどう考えているのか？ その活動に積極的に参加できる人がどれだけ集まってこれるか？ 次世代の世代交代は突然来るのではなく、活動に対して受講者、協力者などがみなさんの活動を観ていることから生まれるものです。積極的にPRしたり、話して人に共感してもらえる時間を如何につくるか？ 参加する人は未来の私たちだということをどう位置づけてもらえるか？ といったことを念頭において下さい。

・発表会においては、目指す効果、「こういうことを今年やりたい」と強調することが大切です。しかし同時に宿題が出ることとなります。年度の終わりには、やった結果どうだったかを報告してもらうこととなります。これはPDCA (Plan Do Check Act)。始めの説明会はP、それからの活動がD、報告会はCとAの部分となります。とかく我が国はCAが弱いと言われています。次の「改善に向けて」を示すことが大切です。反省を踏まえた上でさらにパワーアップするということをしっかり報告して下さい

・発表のツボは

- ①活動のキッカケ
- ②具体的な取組み内容
- ③今年の活動の変化について特に紹介、資金支援を受けてよかったことの PR
- ④今後に向けての話
- ⑤そして他団体とつながろうとする PR をしてください。頼み上手であってください。皆さんは頼まれ上手だとは思いますが、頼むのが上手になることが大切です。
 - ・報告会では、最後に活動結果が発信されると良いと思います。どういう活動をしたかというのに終始してしまっ、総括がないまま発表が終わってしまわないで、これだけの活動を通して結局どうなったか、どういう成果があったか、どういう課題が残ったか、そして翌年度に向けてこういうふうに取り組んでいく、という所は最後の部分で意識して下さい。得られたもの、課題として残ったもの、それを踏まえた上で来年度に向けての抱負や方向性の三点は最後の所で意識してもらえるとよいかと思います。要は、過去の活動の報告をPRするだけよりも、未来のことをPRすることが重要です。
 - ・参加者やスタッフのみなさんの声を積極的に聞いて下さい。それを報告会等で報告すると客観的に活動を見てもらえます。
 - ・活動への参加者の声をまとめることはすごく大事な視点であって、活動報告書をつくる時に、アンケートであったり、参加者への直接インタビューによるヒアリング、何でも構いませんが、皆さんが活動した時に得られた相手からの声、メンバーからの声、これは大事な活動成果として得られたものである、それをまとめたものを形にして報告書に乗せたり、発表の所でこういった声が聞かれた、こういった意見が聞かれたという様なものを発信して行って下さい。グラフもあればすごくわかりやすくなります。そういうものは説得力のあるプレゼンテーションとなります。
 - ・全ての活動はPDCAの流れが基本となります。1年間活動してきたことがDo。この流れを意識して発表することが大切です。活動目的を申請のときに掲げているでしょうが、それに対して、今年度はどんな成果が出たのか、なにをしようとしているのか、どこまで出来たのかを発表でも伝えてください。
 - ・映像のプレゼンテーション、パワーポイントを使ったり、実演・実物を持って来たり、共感を見える化して下さい。魅せることで、相手を引き込んでいただきたい。
 - ・なぜそんなことができたのかということを知ってもらうとして伝えていただきたい。
 - ・他の団体にこのようなことを期待するといったことを発信していてもいいのではないのでしょうか。

3. 主催者と参加者の関係について

(1) 主催者と参加者のボーダーレス化

- ・コミュニティの活動については、主催者と参加者の差がなくなりみんなで活動することが大切です。

- ・参加する人をお客さん扱いしないことも大事です。実は、誰が主催で誰が参加しているのかわからないような活動の方が発展していくようです。迎える立場とお客さんではなく、集まっている人が楽しくみんなが動いて、自分の場所として思っている、活動に賛同し、ボーダレスになるような（インクルージョンというが）視点でやっていていただきたい。
- ・参加者を主催者側へと巻き込んでいく、つまり最初は参加側だが、気づくとメンバーになっているという機会を常に狙っていただきたい。その活動に参加するということは皆さんの活動に共感しているわけなので、その共感している人を仲間にしてそして一緒に楽しんでいけばもっと素晴らしく楽しい活動になるので、参加者を主催者側へと巻き込む、その戦略を常に活動の中で模索していただきたい。
- ・参加者と主催者に壁をつくれればつくるほど、参加だけの人になってしまいます。主催者側の立場に一瞬でも立ってもらふこと、役割を担うことが大事。サービスを提供することから脱却できます。
- ・製作物をつくる場合、製作過程にどれだけ沢山の人が参加できるかをこだわっていただきたい。閉じて作ってできたものだけを提供するのではなく、徹底的に作る過程や売る過程を大事にして下さい。
- ・参加者の声をどう拾うか？参加者の皆さんの声があり、市民の声が集まる。宮前区民としての課題を共通認識できる機会となり、宮前区の魅力も再発見できると思います。
- ・定期的な意見交換会、あるべき姿を語り合うことも大切です。
- ・アンケートなども大変でしょうが、コミュニケーションの手段として進めていただきたい。

(2) 多世代交流

- ・多世代交流をもっと意識してもらって、その部分を活かして将来の担い手、活動を継続するための仕組みづくりにつなげていただきたい。孤立しやすい若い世代に地域の良さを理解して頂くのが良いと思います。おせっかいだからと遠慮しないで引っ張り出す。多世代交流を宮前の名物にして下さい。

(3) OB・OG

- ・今後 OB・OG になる方もぜひこの資金支援の取組みに注目し、継続的に関わって欲しいと思います。

(4) 参加する人の日常的なふれあい

- ・参加される方々の日常的なふれあいを常に狙っていただきたい。
- ・イベントだけではなく、道であいさつする関係を、活動を通してコーディネートすることが大切です。

4. コラボの効用について

・コラボを積極的に進めて下さい。他の活動を知る、活動のノウハウを共有できるなどの効果が考えられます。活動を通じて相互に高め合い、相互のネットワークづくりをし、豊かな連携活動に発展していただきたい。

・「連携」とは、「お互いの目標や課題、活動内容を共有する」こと、「情報共有と役割分担をどうつくるか?」、それを知るほど頼み頼まれることがうまくいくと思われます。つまり、相手の活動内容を良く知ることが大事。そうすることでスムーズになり、より良いコラボレーションが生まれます。

・そして自分の活動を知らしめてください。その連携が必要と感じられるなら、自分の活動を発信しないと力を借りたい相手に伝わりません。

・研修とか講演を活用されている団体には、合同開催を検討することでのコストダウンを検討して下さい。同じ様な話、同じ様な講演をしたい場合は講師料を半額にできます。

5. 自立について

・自己資金の獲得はAコースの段階から考えてください。自立というのが最終的な目標であるので、資金の切れ目が活動の終わりではないはず。皆さんの活動が自立に向けて進んでいくことがまず大事ということです。

・全体の活動費に対する支援金の割合についてしっかり考える必要があります。助成金がないと破綻する設計では続きません。支援金の使い方の戦略を考える必要があります。支援できる期間が決まっているので、申請金額が上がっていく期間に会員増、参加者人数増、収入増につなげていき、仲間と参加者と協力してUターンしていく。5～7年の長期的な資金計画を立てることが大事です。

・活動で収入が保証されていないのというのは、企画自体が破綻しているということです。どうすればいいのか? イベントなどにおける収入を担保すること。会費を集めること。賛助会費(自治会の後援など)が集まること。活動の質が高ければ高いほどそのお金を払ってもらえるようになります。

・団体の活動資金を自立化するために、成果物の販売、受益者負担など活動資金の徴収などのアイデアを考えてください。素晴らしい活動が無料じゃなければならないのではなく、素晴らしいと思うなら協力してほしいと依頼していくことが大事です。参加者に予算の動きを説明していくこと、少しでも資金のサポートしていただくこと、還元できるということを伝えていただきたい。

・講師に頼っているしくみをつくると講師料が負担になります。必ず資金がショートします。1回の講演や研修で1～2年講師を呼ばなくていいぐらい、1回のテーマを1年間深めるような企画にすることが大事です。理想はメンバーが将来講師になる。そのメンバーが他地域に呼ばれて活動費を稼げるようになることも大事です。

・自立をどうデザインするかを検討してほしい。お金だけでなくメンバーの自立、地域への文化やノウハウとして波及していくのも自立です。

6. 公益性・公共性について

・「公益性」については、多くの人たちの困りごとに対する解決策や、たくさんの人たちの利益へ波及するかどうか重要です。そのために調査したり、より多くの人たちを巻き込む工夫を考えていただきたい。

・参加者が特定のメンバーに限定されている活動については、資金支援の主旨を踏まえ、自らの活動が「まちづくりの推進」にどう寄与していくか、また、市民参加の機会をいかに広く提供していくかなど、それぞれの活動が地域における市民活動としての公共性・公益性をどう確保するか、意識しながら活動を行ってほしい。

7. 先駆性について

・市民活動に必ずしも先駆性が求められるわけではないかもしれませんが、ボランティアの立ち上げ要素の中に先駆性というのがよく出てきます。新しいことの工夫を検討していただきたい。それには今までを振り返ったうえで、足りない活動、必要な活動を更にデザインしていくことが必要です。説明会・報告会に出ることや、他社とのコラボレーションによってその活動を見て先駆的な事を発想していく。たくさんの人々の声を聴くことで発想が生み出されます。経験と知識を積み上げた中で先駆性が担保されます。

8. イベント活動について

・イベントの運営や開催がゴールになりがちですが、終わった後が大事だと考えています。イベントを通して出会いやふれあいのつながりをつくって、終了後にまた会おう、つながろう、とあいさつできる関係をつくるのが大事です。メンバー間、メンバーと参加者、参加者同士のつながりづくりをイベントと絡めて考えていくととてもすばらしい。是非、参加者同士のつながりのデザインも検討して下さい。イベントがきっかけでまちづくりの仲間づくりにつながっていくことが大事。これをぜひ企画・コーディネートしていただきたい。

9. 講師を呼ぶ活動について

・講師を呼ぶ活動について、講師と参加者とのふれあいの仕組みをつくっていただきたい。講演後講師に残ってもらって個別の質問が出来るとか、ワークショップに参加してもらいなど、ふれあいの場に呼び出して下さい。その後、参加者同士のふれあいの場を持っていたいただきたい。講師というのは色々な人たちの呼び水になります。

・自立の項の繰り返しとなりますが、講師に頼っているしくみをつくると講師料が負担になります。必ず資金がショートします。1回の講演や研修で1～2年講師を呼ばなくていいぐらい、1回のテーマを1年間深めるような企画にすることが大事。理想はメンバーが将来講師になる。そのメンバーが他地域に呼ばれて活動費を稼げるようになることも大事です。

・講師料は活動費の多くを占めてしまいがちです。連続して特定のお願いをする場合には少し安くしてもらい、あるいは、いろいろな講師をお願いし違う視点から活動を豊かにする事も考えられます。

・講師謝礼の支払いにおいて、地域における市民活動であることを鑑み、固定の講師を繰り返し呼ぶファンクラブのような形にならないよう気をつけていただきたい。

10. 参加できなくなった人へのフォローについて

・活動を続けていくと、これまで参加してくれた方が来れなくなる人も出てくると思いますが、そのような人たちのフォローもぜひやっていただきたい。積極的に連絡をとるとか、その活動の場まで身体的状況で来られなくなった人には、そのお宅の近くでサテライト的に活動するなどの取組をやってください。切り離してしまうのではなく、引き続き活動をできるようにすることが大事です。是非、地域におけるみまもりの視点も活動に取り入れていただきたい。

11. 活動の記録について

・普段から活動を記録し、それをまとめるという習慣が大事であり、記録を取って評価をして改善することが活動を運営する上での大事なノウハウになるので、普段から記録や写真を撮ることも大事にしていきたい。

・活動の記録をきちんととり、それぞれの月に対してどういう活動がされ、参加人数もきちんと把握されているということは、翌年の活動を計画するうえで、前年度の活動の事実を踏まえ翌年度の活動をどう改善するかにおいては大切な視点です。

・誰かが聞くにあたって、活動をきちんと理解するうえでとても大事なものなので、写真や記録を残すことを継続していただきたい。

12. 成果とビジョン

・成果とビジョンは重要です。団体の運営にあたって活動内容やメンバー構成、資金繰り等がどう変化していくかをイメージして、中長期的なビジョンを持ちながら活動することが大切です。また、具体的な To Do List、1年後、3年後、5年後、10年後にどうなっているか、どうなっていたいかまで話し合ってみてください。

13. 計画書・報告書作成について

・Aコースについて、申請書は、いろいろな人が見ることとなります。申請書はPR資料となります。資料を見てもらうことで共感を呼び、仲間づくりにつながると思います。

・申請書を書くということが活動の再認識につながると思っていただきたい。

・計画を立てることが非常に大切です。具体的に何をどうしたいか。1年後には、改善も必要となるでしょう。抽象的な計画では来年に活かせません。活動は、具体的にしましょう。

改善という成長機会を大事にしましょう。

- ・計画作りが、可視化につながり、メンバー同士の課題の共有化が図れます。活動も広がります。目的の具体化を心掛けてください。

- ・報告に関しては、活動の記録をきちんととっていて、それぞれの月に対してどういう活動がされ、参加人数もきちんと報告されていることが大切です。これは翌年の活動を考えるうえで、前年度の活動の事実を踏まえ翌年度の活動をどう改善するかにおいて大切な視点です。報告書をきちんと書けるということは、活動をきちんと記録し評価しているということ、これが大切だと思います。

- ・報告書には公益性、包括性、年間でどのぐらい参加したのかという数字的報告をあわせて盛り込んでいただきたい。数字だけが大事ということではありませんが、数字の情報が後々参考にならないわけではないので記録を大切にしていきたい。

- ・もう一つは活動の写真が適切に掲載され、写真にはコメント、キャプション、写真の下にどんな様子ということがきちんと適切に掲載されていることが望まれます。こういったものは報告会をする上で、誰かが聞くにあたって活動をきちんと理解するうえでとても大事なものなので、写真や記録を残すことを継続していただきたい。

- ・報告書には1～2行で良いので「どんな成果が出たのかという総括」を書いて下さい。その総括をふまえて来年の活動を考えることができると思います。

14. 会則の作成について

- ・広く公共に開く活動ということで、「会則」をつくって活動するようにしてください。特にAコースの出発点でつくることが大切です。

15. 広報について

(1) 広報の重要性

- ・広報活動は活動への参加・協力者や次世代の担い手づくりに重要な役割を果たします。広報活動面での団体間のコラボレーションを充実させていくことも視野に入れてみてはいかがでしょうか。

(2) 効果的な広報

- ・広報活動についてですが、“いつ”、“どこで”、“誰が”やっているという広報は普通の広報です。より効果的にするためには、その参加する人がどのような声を出したか、どう思ったかということを書いていくことが良いと思います。また、担い手側の声を載せることも良いと思います。特に参加者が担い手になるような場合は、このような広報をすることで効果が上がると思います。

- ・広報は、文章より絵、絵より写真、写真より動画を使うことが効果があります。できれば動画にチャレンジしていただきたい。写真に比べ動画は1000倍以上の情報量があると

言われています。さらに、普通の情報提供は2～3日すると忘れられやすく、動画と音声を使うことで66%相手の記憶に残るそうで、相手の共感も得やすい。インターネットを用いて活動の状況の動画を見られるようにして、参加した時の雰囲気などがわかると効果的です。そのような情報発信の仕方を考えていただきたい。

(3) 口コミの効用

・チラシは効果が低く、最大の効果は口コミです。口コミされるような機会を大事にしていきたい。

・口コミというのは最も信頼できる情報伝達です。口コミだけで難しくなったなら、興味、関心を持つ人が集まる場や機会、イベントに参加してその人たちと直接対峙してPRしてください。こちらから出向いてPRするのが大切です。市内や区内のイベントにアウトリーチ、こちらから近づいて行っていただきたい。

(4) メディアの活用

・一般市民へのPRもしていきたい。広報は一方的なもの。PRはpublic relations。相互交流、話を聴き、話を伝えお互いを理解すること。ミニコミ紙の力を借りたり、東急ケーブルに取材してもらおうということも考えられます。知らない人には誰も期待しません。知るからこそ協力が生まれます。

・広報は自分たちの中だけでやらないで、タウンニュースなどへの投げ込みも行うことが大切です。市民・区民に伝えてこそ意味があるので、メディアとコラボすることに取り組んでいただきたい。メディアを活用して発信し、仲間を増やしてください。

・広報誌をとおした情報発信も重要です。連携協働も視野に入れて発信してください。

・YouTubeには活動のノウハウとなるコンテンツがたくさん詰まっているので積極的に活用してほしい。

(5) 地域と密着した広報

・地域の住民の方に活動の魅力を伝えるようにしていきたい。

・まだ知らない区民にいかんにか伝えていくのか？これは、みなさんの活動を通して伝えていただきたい。みなさんの活動そのものが地域へのPRであり、区民が活動を知るキッカケとなるように伝えていってください。そのためには、皆さんも「地域を知る」ことに努めてください。地域を改めて知ることで、気づきや活動の必要性を再認識できます。

・地域を構成する基盤である町会・自治会に活動を理解してもらうことも大切です。魅せる活動でみんなをとりこにして、協賛、共感してくれる人を増やし、自治会、民生員、地区社協などと連携できるように進めて下さい。

・応援してもらい、巻き込んでいく。そうしたことを大事にしていきたい。

16. 資金支援の市民活動について

・早期自立を考えることが重要ではありますが、一方、この資金支援の場はお金を得ることだけが目的ではなく、広く相互理解を広げることや、出会いがあるので、まちづくりの一環として出会いとつながりの場として活用いただきたい。

17. 地域包括ケアシステムとまちづくりについて

・「地域包括ケアシステム」という言葉について。市が力を入れていることを、みなさんも理解していただきたい。その経緯は古く 1970 年代に広島県の山口医師がはじめたこと。くも膜下出血の患者さんを手術して地域に戻したら認知症になり褥瘡だらけで病院に戻ってきたことから、地域の介護力がおかしくなっていること、医療や福祉、住民の力が連携する事が必要だということになったものです。みなさんのように元気で居続けたい。すばらしい活動が健康を維持する生きがいがいづくりになっている。地域包括ケアシステムはそういうモデルを進めていくことになりました。専門家だけではなく住民と切っても切り離さないもの。福祉をどうするというのではなく、地域をどうするか？というしくみをつくっていく「まちづくりの視点」でつくられたものです。この言葉を使っていただきたい。流行り言葉としてではなく、お使いになってほしい。

18. 新型コロナ対応について

・新型コロナウイルス問題によって、人と人とのつながりや距離が制限される中、これまで培った絆を維持し続ける、新しい視点も必要になってきています。特に ICT の活用を活動に組み込む視点も今後の市民活動には求められるようになってくるでしょう。

・他団体との連携やコラボレーションを通じて、オンラインスキル等の活動ノウハウをシェアして新たな活動につなげてほしい。

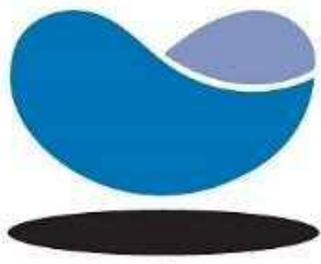
・オンラインの強みを知ってほしい。オンラインは一過性のツールではなく、新しいコミュニケーションの方法となる。これに伴い、今までつながりのなかった人や活動に参加できなかった人をオンラインで受け入れるチャンスだと捉えて、積極的な活用を検討してほしい。

令和 5 年 11 月



つなぐ・むすぶ・ひろげる

宮前区まちづくり協議会



宮前区